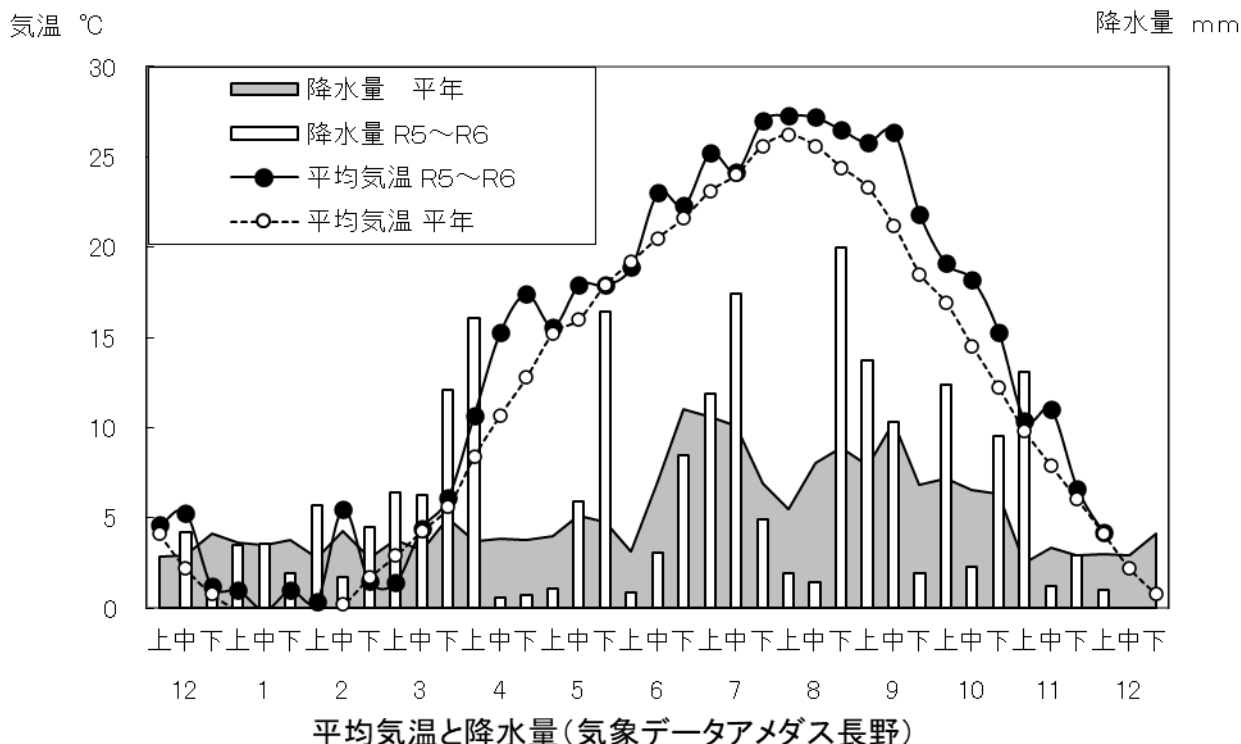


# 農作物の生育状況（12月15日現在）について

令和6年12月15日  
長野農業農村支援センター

## 【気象データ】



## 【作物】

### (1) 水稻

須高地域と長野市南部の「風さやか」を中心に、一等米比率が低下した。白未熟粒による等級落ちは昨年よりは少ないものの平年より多くなった。斑点米の発生は昨年より多く、特に須高地域ではほぼ2等以下となった。また、倒伏の影響により、信濃町・飯綱町では未熟粒が多く、須高地域・長野市南部では整粒不足となった。収量はほ場により差が大きい。信濃町・千曲市では平年よりやや多く、須高地域・長野市南部で平年よりやや悪く、長野管内全体では平年並みとなった。

### (2) 大豆

カメムシ等虫害が激しく、収量は平年の半分以下の見込みで、品質も悪い。千曲市・坂城町では子実肥大不良のは場が多く青立ちしており、収穫せずに耕起したほ場も散見された。開花期の干ばつと、草丈が伸びた一方で大雨に数回遭遇したことによる根へのストレス、高温が続いたことによる虫害の長期化により、落花・落莢、莢・子実の肥大不良と食害・吸汁害が生じたと考えられる。

### (3) ソバ

草丈が伸びたため倒伏したほ場が多く、収量は長野管内全体では平年並みとなった。信濃町では収量が平年よりやや多く、9割が1等となった。千曲市の湿害ほ場では生育が抑制され、収穫皆無のほ場も見られたが、水はけの良いほ場では平年より収量が多くなった。戸隠では平年より収量がやや悪くなった。

### (4) 麦

大豆の収穫遅れにより麦大豆の二毛作ほ場では麦のは種が遅れた。11月の気温が高かったため10月下旬は種のは生育旺盛だが、12月に気温が平年並みに低下し積雪もあったため、11月下旬以降は種のは生育が不足している。千曲市の11月上旬は種のシュンライは5.1葉、莖数300本/m<sup>2</sup>程度。千曲市の10月下旬は種のユメセイキは6.0葉、莖数780本/m<sup>2</sup>程度。長野市の10月下旬は種のしゅんようは5.5葉、300本/m<sup>2</sup>程度、11月中旬は種のしゅんようは1.5葉、莖数150本/m<sup>2</sup>程度、11月上旬は種のはナチカラは2.1葉、200本/m<sup>2</sup>程度。12月は種のはナチカラは未出芽のものが多い。

## 【果樹】

### (1) りんご

「ふじ」は収穫終了。全域で贈答用が少ない状況で、計画値を下回るも単価は高単価で推移。花芽率は概ね60%となり、やや葉芽の割合が高めであった。落葉が非常に遅れている。

### (2) ぶどう

枝の登熟具合にバラつきが出ている。棚面が暗かった園地を中心に登熟が非常に悪い一方、新梢管理をしっかり行ったほ場では問題なく登熟している。

## 【野菜】

### (1) アスパラガス

地上部の黄化が例年に比べ遅いほ場もあるが、多くが刈り取り終了。貯蔵根の糖度もについて調査中であるが、例年並みと考えられる。

### (2) 果菜類

トマトの抑制作型(8月初旬定植)は、平年並みで10~12段果房まで着果。一部で裂果が目立つ。タバコガ類の被害も散見された。

### (3) ナガイモ

収穫中である。本年は若干短い傾向にあるが、全般に良好なものが多い。

## 【花き】

ユウカリは年内出荷に向けて出荷最盛期となっている。